

部局名	教育委員会	所属名	指導課	所属長名	浅見 幸彦	電 話	481-0301
-----	-------	-----	-----	------	-------	-----	----------

1. 事務事業の位置付け・概要（PLAN）

コード	4144	事務事業名称	適応支援センター維持管理事業					短縮コード	経常	4144	臨時	
予算区分	会計	01	一般会計	款	10	教育費	項	01	教育総務費	目	03	教育振興費
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他			根拠法令等		地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条，八千代市適応支援センターの設置及び管理に関する条例，八千代市適応支援センターの設置及び管理に関する条例施行規則						
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）												
不登校児童生徒への支援を行う上で前施設が狭隘状況であったことから，平成21年4月，適応支援センターが旧勤労青少年ホームへ移転。適応支援センター施設・設備の維持管理を目的として事業を開始した。												
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測 市内の不登校児童生徒数が未だ横這いで推移していると同時に，不登校の要因は以前と比較して多様化・複雑化している。それに伴い，今後，通所児童生徒数及び保護者への個別のニーズに応じた支援が必要となるとともに相談件数の増加も見込まれる。また，平成22年6月より土曜日・日曜日に限り，本施設内体育室を市内の地域スポーツ活動団体に開放している。				総合計画の施策体系	5本の柱（章）	02	人間尊重都市をめざして					
					大項目（節）	01	学校教育					
					中 項 目	02	義務教育					
					小項目（施策）	02	教育内容の充実					
					細 項 目	03	心の教育の推進					
実施計画の計画事業												
計画事業の位置付けの有無			☐	計画事業期間		～		計画事業費		千円		

2. 事務事業の目的・指標・実績（DO）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	不登校児童生徒及び保護者，市民							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成22年度に実際に行ったこと： 適応支援センター施設・設備の維持管理を行う。本施設の体育室を市内の地域スポーツ活動団体に土曜日・日曜日に限り開放する。							
	※平成23年度に計画していること： 平成22年度と同様のこと。							
意図 （何を狙っているのか）	適応支援センター施設・設備の維持管理を行うことで，通所児童生徒の情緒の安定を図り，登校への意欲を高める。本施設の体育室を市内の地域スポーツ活動団体に開放することで，市民の体力向上と健康増進に寄与する。							
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外							
区 分				単位	21年度	22年度		23年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標1	不登校児童生徒の数	人	185	180	174	180	
	指標2							
	指標3							
活動指標	指標1	相談件数	件	507	500	558	550	
	指標2	通所児童・生徒の数	人	23	30	32	30	
	指標3							
成果指標	指標1	学校復帰者数／通所児童生徒数	%	40	45	44	45	
	指標2							
	指標3							
上位成果指標	指標1							
	指標2							
	指標3							

コード	4144	事務事業名称	適応支援センター維持管理事業				所属名	指導課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☒ 改革・改善して継続			児童生徒が安心して通所し、安全に活動できるよう環境整備を進める。また、通所している児童生徒に支障のない範囲で体育室の開放を継続する。			
		☒ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止・休止								
☐ 事業完了								
☐ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			環境整備のための修繕費，デジタルテレビ等視聴覚機器の導入等，市民への体育室開放に伴い，光熱費等の増額と体育備品購入費が必要となる。	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☐	☒		
			不 変	☐	☐	☐		
			低 下	☐	☐	☐		

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
個々のニーズに応じたスペースが確保されており、自分に合ったペースで活動できる。（通所児童生徒） プライバシーに配慮された場所が確保されており、安心して相談したり、カウンセリングを受けたりできる。（保護者・カウンセリング対象児童生徒） 身近にある施設を利用できることに感謝している。（利用者）									

所属長コメント	児童生徒が安心して通所し，安全に活動できるよう環境整備を進める。また，本事業に支障のない範囲で体育室の開放を推進する。									
	評価調整委員会評価	☒ 改革改善して継続			施設の環境整備及び市民への体育室の開放については，費用対効果を検証したうえで順次推進すること。					
		☒ 手法プロセスの改革・改善								
		☐ 事業規模の拡大・縮小								
		☐ 統合・役割見直し								
☐ その他										
☐ 廃止・休止										
☐ 事業完了										
☐ 現状のまま継続										